

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500030		
法人名	有限会社 シーシー商会		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	千葉県緑区辺田町365番地1		
自己評価作成日	令和4年3月7日	評価結果市町村受理日	令和4年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設理念を念頭に、コロナウイルス感染対策・健康管理・衛生管理を徹底継続している。利用者様一人ひとりの些細な変化にも迅速に対応し、家庭的な雰囲気の中穏やかで安心した生活が出来るように環境を整えている。</p> <p>Vサービスの成果に関する項目 64、65に関しましてはコロナ禍の為、現在は難しい状況です。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍であり、利用者及び職員が罹患しないよう勉強会を実施し、理解を深めたうえで、全職員で感染対策を徹底している。外出は自粛しているが、利用者にはホーム内で自由に過ごしてもらっている。また、職員の資質の向上を支援しており、今年度は複数の職員が認知症介護実践者研修を受講している。ホームは介護度の高い利用者を受け入れているが、一人ひとりの状態を細かく観察し、理念である「安心と尊厳のある生活の支援」に取り組んでいる。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が安心して過ごしていただけるよう職員一人ひとりが共有の思いを持ち施設理念を実践している	理念は玄関やフロア、廊下など職員の目に付きやすい場所に掲示している。安心と尊厳のある生活を支援するため、思わぬアクシデントがあった場合は、職員に考えをまとめてもらったり、職員間で話し合い理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の中止や参加困難の中、年度中での転居があり地域のつながりを考慮しながら今後も積極的な参加に努めます	コロナ禍前は自治会に加入し、地域の節分や夏祭りなどに参加していた。現在は地域行事への参加は中止としている。また、ホームを移転したため、未だ自治会には加入していない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアについての会議や研修を行い地域の皆様にもご理解頂けるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染配慮により通常の会議は困難となっていますが電話連絡等気づいたことや意見を活かすよう努めている	コロナ禍のため外部のメンバーを入れずに職員参加で運営推進会議を実施し、内容は地域包括支援センターに送付している。また、区長が近隣に住んでおり、感染対策の状況や利用者が過ごしている様子を伝えていく。	対面で運営推進会議が難しい場合は、書面での開催も可能と思われる。ホームの取り組み状況を参加予定者に送付し、意見をもらうなどのやり取りが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当の方へ状況報告し相談やアドバイスをなど協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当課に利用者の状況を報告したり、ケアマネジャーが訪問している。地域包括支援センターの職員には、運営推進会議の報告書を送ったり、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行い施設全体で身体拘束のないケアの実践にむけて職員一体となり取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を整備し、委員会を開催するとともに職員研修を実施している。言葉遣いについても、利用者の気持ちに寄り添うよう職員に話している。玄関は施錠せず、利用者が外に出る時は職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修により施設全体で虐待を見逃さない取り組みにより防止につながる再確認をしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員学びの機会を持ち必要性のある利用者様については地域包括支援センター等相談活用し支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用契約書や重要事項の説明など利用開始時の不安や疑問等に丁寧に十分な説明を心掛けご理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の意見を伺い意見交換により全員で共有し向上に努めている	利用者の意向は、居室で聞いたり会話のなかで聞くことがある。家族の意見は電話等で聞いている。利用者や家族の意見等は、口頭や連絡ノートで職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自由に意見が言える環境づくりをしております情報共有し働きやすい環境を整えている	職員の意見は、業務の合間や食事の時に聞いている。定期的な個人面談は実施していないが、必要があれば面談するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境をつくり各自がやりがいや向上心を持って働ける職場づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図りコロナ禍で外部研修参加は厳しくなっているが技術や知識がしっかり身につけられるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は厳しい状況ですが今後も情報交換を行いネットワークづくりに努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用される方のアセスメントをしっかり行い本人・ご家族の不安や要望を聞き安心して過ごして頂けるよう信頼関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞かせて頂き不安や要望に耳を傾け解消できるサービス提供を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族の状況を把握し必要とされる支援を提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活を共有しているという姿勢を大切にし家族のような関係づくりを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係も密になるよう心掛け家族同様、共にご利用者を支えて行けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方々と楽しく過ごせるよう配慮している	コロナ禍前は家族や友人が訪ねて来たり、知人の墓参りにも出かけたことがある。現在は、兄弟からの電話を取り次ぐなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し席等の配慮や良好な関係であるよう配慮している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係性を大切に引続き相談や支援を提供できるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握するよう努め、言語表現が困難な利用者様には思考表示も見逃さないよう必要な支援を行っている	利用者の思いや意向は、入所時の情報や日々の生活の中から把握に努めている。コミュニケーションが十分取れない利用者も多く、筆記やジェスチャーなどで判断している。職員は連絡ノートで共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を本人やご家族から聞き取りしフェースシートを作成し情報把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方から心身の状態を把握し記録を活用しながら現状を把握し支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題や支援について検討が必要な時は話し合い現状に即した支援を行っている	カンファレンスで計画作成担当者がまとめ、ケアマネジャーが確認して介護計画を作成している。短期目標は6か月、長期目標は1年としている。モニタリングは計画作成担当者やケアマネジャーがおこない、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を残し常に職員で共有しケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟な支援、サポートに努めている		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で困難な状況が続いていますが地域の協力の下で地域の行事やボランティアの方々の催事に参加できるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の生活記録に基づき受診時は職員も同席し状況を説明し適切な医療を受けるようにしている	バイタルや視診を毎日おこなっている。受診については訪問診療医が来ており、来訪時は職員も同席して状態を説明している。急変時は訪問医に連絡し、救急搬送等の判断を仰ぐなど、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中、健康管理に努め情報を伝え適時適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師に情報交換や相談をし利用者様が安心して治療できるよう計らい、早期に退院できるよう協力を努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた研修を行い医師と連携し取り組みご家族には早い段階で説明を行っている	看取りは実施していないが、重度化した場合の対応については、早い段階で家族に説明している。また、重度化した場合は訪問医と相談し、できる限りの対応をおこなっている。	重度化や終末期に向けた方針を明文化し、家族の同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の訓練や研修を行い迅速な対応ができるよう実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や災害訓練時には地域の協力を得て積極的参加に取り組んでいる	コロナ禍のため、防災訓練は夜勤者を含め職員との話し合いとした。過去には消防に来てもらいアドバイスなども受けていた。介護度の高い利用者も多く、移動を課題としている。備蓄品として、水・食品・蓄電池等を用意している。	コロナ禍ではあるが、訓練を継続する工夫を検討することが必要と思われる。業務計画(BCP)の策定も期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声掛けやプライバシーに配慮した対応を心掛けている	少しの時間でも、利用者の話を傾聴することに心掛けている。排泄介助では声掛けや介助においてプライバシーに配慮している。入浴も希望があれば同性介助が可能である。利用者の呼称は基本はさん付けとするなど、尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思表示を見逃さない傾聴し一人ひとりの希望が叶えられるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様との共有時間を大切に、どのように過ごしたいか要望に添った支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の利用や清潔、身だしなみに配慮するやう心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年行事や月行事に合わせて献立を工夫し楽しく食事を召し上がっていただけるよう取り組んでいる	利用者の食形態に合わせ、常食のほか、刻みやトロミ等で提供し、食事が摂れるようにしている。雛祭りや節句等の行事には、ちらし寿司や甘味を提供し楽しんでもらっている。食事の準備に参加する利用者はいないが、下膳を手伝う人が何人かいる。	夕食の時間が16時30分と少し早いのではないかと思われる。再検討も期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や現状を把握し食事量、食事形態、水分量を考慮し適切な食事提供に取り組んでいます		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内の異常や誤嚥性肺炎の予防にも努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け誘導してトイレ内で排泄ができるよう取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、利用者個々に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの水分摂取量に気を配りチェック表を用いて健康管理に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴時の確認事項により安全に気持ちよく入浴できるよう配慮し支援している	週2回の入浴を基本として支援している。利用者一人ひとりのその日の状態をよく見て、時にはシャワー浴や清拭に変更することもある。ゆっくりと温まってもらう場合は、見守り安全を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで自由にくつろいでいただき夜間は室温管理や入眠状態を確認し安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報に基づき、服薬時飲み込むまで確認し誤嚥や誤薬防止にも職員全員で取り組んでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話などから個々の希望に添った気分転換や楽しみごとを見出し支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で戸外困難な状況ですが外出困難な利用者様もおります、他の利用者様は状況に応じて外出できるよう支援している	コロナ禍であり外出は控えている。コロナ前は近くに初詣に出掛けたり、車で公園に出かけてお花見を楽しむなどしていた。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない利用者様が多い為、事務所で保管を行っている 利用者様の安全に配慮し希望により自らが買い物ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて見守り必要な支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく生活できるよう配慮し共有の場に花や絵を飾ったり、ゆったりくつろげる雰囲気づくりに努めている	リビングには鯉のぼりや藤の花、アジサイなどを作って飾っている。利用者は、リビングでゲームやパズルをしたり、テレビを見たり、ソファで寛ぐなど、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテレビやソファなど設置しパズルや折り紙、読書自由にくつろげる空間づくりし、見守り支援を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にテレビを設置し個々の趣味に合わせて入居後に購入支援など希望に添った心地よく過ごせる居室づくりを目指している	ベッドや布団、カーテン、エアコン等をホームで設置している。利用者は居室に鉢植えを置くなど、それぞれ自分らしい部屋になるよう、ホームが支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具や整理ケースの配置を考え工夫している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと